

Ⅱ 実践編

11 搬送法

(1) 説明のポイント

【搬送法】

搬送法には、①担架を使った搬送方法と②担架がない時の搬送方法があり、②担架がない時の搬送方法には、身近なものを使って担架を作るパターンと徒手搬送があります。

【徒手搬送】

徒手搬送には、①一人で搬送する方法、②二人で搬送する方法、③三人で搬送する方法があります。

【一人で搬送する方法】

- ① 背部から後方に移動させる方法
- ② 背負って搬送する方法
- ③ 横向きで搬送する方法

【二人で搬送する方法】

- ① 傷病者の前後を抱えて搬送する方法
- ② 両手を組んで搬送する方法

【三人で搬送する方法】

二名が片側で足と頭を抱え、もう一人は反対側から体幹部を抱えて搬送する方法

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(2) 説明要領 ※参考例文になりますので、適宜修正してください。

説明例文①

皆さんこんにちは。〇〇消防署(消防出張所)の〇〇です。

本日は、搬送法について説明します。よろしくお願いします。

応急手当を行いたくても、今いる場所が危険だったり、地震や風水害の後で救急車や消防車が近くに来れない状況や倒壊しそうな建物の下に人がいるなど、有事の際に搬送法について知っていれば非常に役に立ちます。

まずは、担架を使った搬送法についてお話します。傷病者の応急手当を行った後に保温し、原則として足側を前にして搬送します。

搬送中は動揺や振動をできるだけ少なくします。階段や坂では、登りは頭側から進行、下りは足側から進行し、常に頭が高くなるようにします。

次に担架がないときの搬送法についてお話します。

大きく分けて2パターンあります。

1つは身近なものを使って担架を作るパターンともう1つは道具を使わずに搬送する徒手搬送です。

担架を作る場合は、例えば毛布と物干し竿など(丈夫なもの)を使って作ることができます。(展示も交えながら)

毛布を広げ、約3分の1の場所に物干し竿など(丈夫なもの)1本を置き、物干しざおを包み込むように毛布を折り返します。もう1本の物干しざおを、折り返した毛布の上(端を15cm以上確保します。)に置き、残りの毛布を折り返します。

次に徒手搬送です。(展示を見せる)徒手搬送には一人で搬送する方法、二人で搬送する方法、三人で搬送する方法があります。

一人で搬送する方法は3つあります。

①背部から後方に移動する方法で、おしりを持ち上げるようにして移動させます。

②背負って搬送する方法で、傷病者の両腕を交差または、平行にさせて、両手を持って搬送します。

③横向きで搬送する方法で、小児、乳児や小柄な人は横抱きにした方が搬送しやすくなります。

ポイントは、傷病者の状態、ケガの部位や病気の種類により最適な方法で運びます。また、1人で搬送する方法は、やむを得ない場合にとどめ、努めて複数の者により、搬送を心がけましょう。

Ⅱ 実践編

説明例文②

次に、二人で搬送する方法で2つあります。

①傷病者の前後を抱えて搬送する方法

②両手を組んで搬送する方法

ポイントは、傷病者の首が前に倒れるおそれがあるので、気道の確保に注意します。

また、お互いに歩調を合わせ、傷病者に動揺を与えないようにしましょう。

最後に三人で搬送する方法です。

二名が片側で、足と頭を抱え、もう一人は反対側から体幹部を抱えて搬送します。

ポイントは、足側の膝をつき、頭側の膝を立てて折り膝とします。両腕を傷病者の下に十分に入れ、3名が同時に行動します。

搬送法で重要なことは、傷病者に苦痛を与えず安全に搬送することが大切です。

いざという時に適切な搬送法ができるようにしっかりと覚えておきましょう。

それでは、説明を終わります。ありがとうございました。

Ⅱ 実践編

(3) 知識

ア 搬送法

(ア) 担架搬送法

担架搬送は、傷病者の応急手当を行った後、保温をして、原則として足側を前にし、搬送します。搬送中は、動揺や振動をできるだけ少なくします。

(イ) 応急担架作成方法

a 物干し竿等（丈夫なもの）と毛布による担架

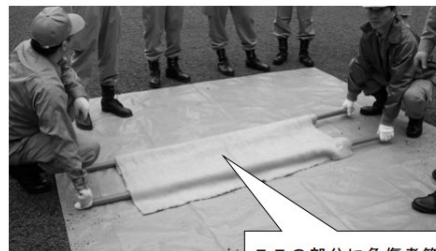
毛布を広げ、約3分の1の場所に物干し竿など（丈夫なもの）1本を置き、物干しざおを包み込むように毛布を折り返します。もう1本の物干し竿を、折り返した毛布の上（端を15cm以上確保します）に置き、残りの毛布を折り返します。※毛布や物干し竿等は、必ず丈夫なものを使用してください。



1/3の部分



毛布を折り返して、
棒を包み込んだところ。



ここの部分に負傷者等を
乗せて搬送します。



反対側の端を折り返したところ。

Ⅱ 実践編

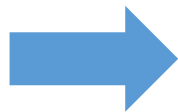
b 毛布やシーツを用いた担架

ご家庭にある毛布やシーツで図のように傷病者をくるんで搬送する方法です。傷病者の胸腹部を圧迫することが多いので注意します。4人（片側2人）以上で搬送します。棒がないので、狭いところなどである程度変形させることができます。持ち上げるときは、声を合わせ頭側から持ち上げ、降ろすときは足側から降ろすようにしましょう。

※ 毛布などは、必ず丈夫なものを使用してください。



①毛布の中央に傷病者を載せ、両側から巻きます。（できるだけ細く固く巻きます）



②できるだけ傷病者の近くまで巻き、となりの人と手をクロスさせ、安定性を高めます。

Ⅱ 実践編

(ウ) 徒手搬送

担架等が使用できない場合に傷病者を安全な場所へ緊急に移動させるために用いられます。

▼注意点▼

徒手搬送は、いかに慎重に行っても傷病者に与える影響が大きいことを認識して、必要最小限にとどめます。

a 1 名で搬送する方法

- ① 背部から後方に移動する方法で、おしりを持ち上げるようにして移動させます。(図1)
- ② 背負って搬送する方法で、傷病者の両腕を交差または平行にさせて、両手を持って搬送します。(図2)
- ③ 横抱きで搬送する方法で、小児、乳児や小柄な人は横抱きにしたらほうが搬送しやすくなります。(図3)



図1



図2



図3

Ⅱ 実践編

▼ポイント▼

- ・ 傷病者の状態、ケガの部位や病気の種類により最適な方法
- ・ やむを得ない場合にとどめ、努めて複数の者により搬送を心がけます。

b 2名で搬送する方法

- ① 傷病者の前後を抱えて搬送します。
- ② 2名で手を組み傷病者をその間に座らせ搬送します。

▼ポイント▼

- ・ 傷病者の首が前に倒れるおそれがあるので、気道の確保に注意します。
- ・ お互いに歩調を合わせ、傷病者に動揺を与えないようにします。

Ⅱ 実践編

c 3名で搬送する方法

2名が片側で、足と頭を抱え、もう一人は反対側から体幹部を抱えて搬送します。

▼ポイント▼

- ・足側の膝をつき、頭側の膝を立てて折り膝とします。
- ・両腕を傷病者の下に十分入れます。
- ・3名が同時に行動します。



3名で搬送する方法



2名で搬送する方法



Ⅱ 実践編

イ 参考資料

教材等	内容	備考
よこはま防災e-パーク	火災、地震、風水害など、いざという時の備えを動画やミニテスト等の充実したデジタル教材で学ぶことができます。	参考リンク： よこはま防災e-パーク 手軽に学べる3分シリーズ、学習動画一覧 ※職員用ページにも掲載しています。
家庭防災員 (横浜市ホームページ)	家庭防災員研修テキストの救急研修に搬送法など、応急手当について記載しています。	参考リンク： 家庭防災員
救命処置以外の応急手当 (横浜市ホームページ)	搬送法など、応急手当について記載しています。	参考リンク： 救命処置以外の応急手当
応急手当に関する講習 (横浜市ホームページ)	応急手当に関する講習について記載しています。 (普通救命講習や救急入門コースなど)	参考リンク： 応急手当に関する講習
応急手当Web講習 (横浜市ホームページ)	パソコンやスマートフォンを使用し、救命講習の座学部分(60分間)についてインターネットで事前に学習していただいた後、概ね一ヶ月以内に実技を中心とした救命講習を受講することで実技講習に応じた救命講習を修了したものと認定する講習です。	参考リンク： 応急手当Web講習